

(別添3)

【肝付町】
校務DX計画

1. 校務DX化の現状及び成果

文部科学省が、令和5年3月に次世代の校務DXの方向性として、「校務系・学習系ネットワークの統合」と「次世代の校務支援システムの整備」と「クラウド活用を前提としたGIGAスクール環境の積極的活用」を示した。

本町では、データのクラウド管理、ゼロトラストの考え方によるセキュリティ対策を念頭に校務DXを進め、教職員間での情報交換の励行や会議資料のペーパーレス化、校務処理の負担軽減が図られた。また、スケジュール管理のオンライン化や、学校と保護者間の連絡手段のデジタル化が進み、教職員や校内・校外の学校関係者の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化に繋がっている。

具体的な取り組みは以下のとおり。

(1) 校務系・学習系ネットワークの統合

令和7年2月、教員校務用端末をLTE通信無制限モデルに更新、クラウド上でデータ管理を行う。これにより、場所を選ばず業務ができる環境を提供、教員の働き方改革に繋げる。

令和8年4月の児童生徒用端末及びネットワーク更新により、1台の端末で全ての校務ができる環境（学習系・校務系ネットワーク統合）を構築する。

(2) 次世代の校務支援システムの整備

令和6年4月、フルクラウドの統合型校務支援システムを運用開始した。

(3) クラウド活用を前提としたGIGAスクール環境の積極的活用

積極的活用のため、環境構築と併せて、教員を対象とした校務用端末及び校務支援システムの操作研修を実施する他、令和2年度より機器活用に1名、授業や研修サポート、機器設定及び操作方法指導等に1名のICT支援員を配置している。

2. 校務DXに向けた課題と解決策

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストに基づく自己点検（令和5年12月公表）」調査結果に基づく、課題と解決策は以下のとおり。

	課題	解決策等
(1)教員と保護者間の連絡のデジタル化	<p>①クラウド活用割合が低い。 「児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡」 「業務時間外の保護者からの問い合わせ」 「学校からの保護者へ発信するお便り・配布物等」 「保護者から学校への提出資料」 「保護者との日程調整」</p> <p>②オンライン活用割合が低い。 「学校説明会や保護者面談等」</p>	<p>令和6年4月の校務支援システム導入により、児童生徒からはアクセスできない環境でのシステム活用が可能となった。保護者の満足度向上、保護者・教職員の負担軽減及びペーパーレス化のため、クラウド及びオンラインの活用を積極的に推奨する。</p>
(2)教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化	<p>①授業中の小テスト等、定期テストにクラウドサービスを活用したCBTを取り入れていない。</p>	<p>クラウドサービス（クラウドツール、AIドリル教材、MEXCBT等）を積極的活用により、授業の充実、併せて教員の負担軽減に繋げる。</p>
(3)学校内の連絡のデジタル化	<p>①オンライン活用割合が低い。 「授業研究会や校内研修等での協議」 「職員会議等のハイブリッド（対面・オンライン）実施」 「長期休暇期間（夏休み等）の教職員の動静調査」</p>	<p>授業研究会、校内研修、校務分掌の会議、学校行事関連の会議における意見交換や反省にチャット機能や付箋ソフトを用い、共同編集機能を活用し、子どもの学びと相似形の研修を実現することで、研修効果向上及び授業改善が期待できる。また、在宅勤務や出張時等場所を選ばず参加が可能となることに加え、会議内容を録画しておけば、後日見るなどして議論に追いつくなど、働き方改革に繋がるため、オンラインの活用を積極的に推奨する。</p>

(4)その他	「保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類が存在する。」 「業務でのFAXが使用されている。」	ペーパーレス化や働き方改革の推進が期待できるため、その必要性について学校及び教育委員会で十分検討する。
	「児童生徒によるパスワード管理率が低い。」	教職員が情報を一括管理することによるセキュリティリスクや業務負担の軽減のため、自身の端末のパスワードは本人が管理できる体制を整える
	「生成AIの校務活用率が低い」	長時間かかっていた作業（教材やテスト問題、校外学習等の行程作成、研修資料、保護者向けお知らせ文書のたたき台）が効率化するなど、働き方改革に繋がるため、研修実施や実践事例の周知等により生成AIの積極的な校務活用を推進する。